

令和3年度 第2回 台東区地域ケア全体会議 議事概要

日時：令和4年2月21日（月） ※新型コロナウイルス感染防止対策のため書面開催

出席者：17名

新田委員 須田委員 加藤委員 木山委員 中富委員 川又委員 山村委員
石井委員 宮本委員 小竹委員 平野委員 澤瀉委員 柴田委員 和泉澤委員
武田委員 原嶋委員 高木委員

●令和3年度 地域ケア会議の実施状況について [資料1](#) [資料2](#)

台東区における地域ケア会議の各会議体の名称・目的は[資料1](#)でご確認ください。

令和4年1月末時点での各会議体の実施回数は、[資料2](#)でご確認ください。

①自立支援・介護予防に向けた地域ケア個別会議は高齢者本人の参加を条件としているため、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より、Zoomを使用し、オンラインにて実施しました。

②チームミーティングにつきましては、下部会議にあたる◎地域ケア包括合同会議内で“台東区内で増加し続けている分譲マンションへの対応と課題”について話し合いを行っている途中で、具体的な取組みには至っていないことから未実施となっております。

【委員からの意見と回答】

・様々なレベルの会議があり、会議の性格や構成メンバーも異なりますが、今後とも with コロナの状況が続く中で、可能な限り ICT を活用した会議や会合の開催の可能性を探ることも必要だと思われます。

・コロナ禍のため、地域ケア会議の開催も大変だったと思います。

・多職種で話し合うことで多面的な意見が出たり、見方を変えて考えたりできるので貴重な機会だと思う。

・個人の問題から全体に（地域）関係のあるものを見極める、手間のかかるサービスは本当にありがたいです。コロナ禍でありながら、3年度は Zoom などオンラインでの会議など積極的に利用されたのかと思います。

●令和3年度「自立支援・介護予防に向けた地域ケア個別会議」実施状況について [資料3](#)

今年度実施した11件について、報告させていただきます。

オンラインのため、高齢者と専門職が同じ部屋にすることができなかったことにより、高齢者の歩行や衣類の着脱などの体の状態が確認できませんでした。また、お互いにマスクを付けていることから、専門職にとっては高齢者の口の使い方が確認できない状況、高齢者にとっては専門職の表情が把握しにくい状況となっしまい、双方に厳しい環境での開催となりました。

当初は、通信トラブルなども発生したため、各回終了後に改善に向けた打合せを実施しました。その結果、発言が聞こえにくかった際に画面に提示するサインを事務局で用意する、高齢者の発言に対するリアクションを大きくとるなどの様々な改善を行いました。事務局と専門職の参加者全員でより良い会議となるように意見を出し合い、協力して開催することができました。

会議終了後には、ご本人から助言内容を実践してみたいと積極的な反応が令和元年度よりも多くありました。また、モニタリングでは、提案した助言に取り組んだことで生活環境が改善した方(No.5)や会議参加によってモチベーションアップにつながった方(No.8)がいらっしゃいました。

一方で、助言内容に取り組んでみたが、今までの生活スタイルを続けていきたいと思われた方(No.6)もいらっしゃいました。

【委員からの意見と回答】

・オンライン会議のデメリットも判明しましたが、ハイブリット会議とすることなども含め、その改善方策を今後とも検討していただければと思います。

・オンラインでの会議の試み、すばらしいと思いました。引き続き積極的に取り組んでください。

・会議を終えての本人の反応・感想が前向きな意見となっているのは、支えられる方々の働きかけがいいのだと思います。

・「〇〇さんのこれから作戦会議」について、本人が3か月、6か月の目標をたてることで、各人が把握し、支援することが出来ていいと思います。特に独居の方が多いため本人のQOL向上にもつながっていると思う。多職種からの助言があり、体調面においても改善しやすいと思う。会議後の本人コメントも前向きなものが多い。

・90代前半の方と同様に各人が、専門職の助言者の助言や提案を忠実に履行する努力と、助言者の親身な助言や行動がすごい。

・全体を通してコロナ禍での開催にオンラインを用い、大変ご苦労されていると思います。高齢者を対象としたオンラインでのやり取りの工夫については本事業だけでなく、様々な場面で活用可能

と考えます。是非、整理・発信を期待します。

⇒(回答) オンラインによる介護予防教室については、参加者向けの Zoom の使い方講座を行い、Zoom を使ったことの無い方でも参加できるよう工夫をしています。また、Twitter や LINE での情報発信も実施しています。自立支援・介護予防に向けた地域ケア個別会議につきましては、反省と改善を繰り返しながら、1年間実施してまいりました。本会議のみならず他事業においても、オンライン開催を選択肢に入れ、柔軟に開催できるように検討してまいります。

・専門職の助言は高齢者でなくても参考になることが多くあった。運動・睡眠・食事に加え、栄養・口腔ケアについて管理栄養士の方や歯科衛生士の方と関わりを多くしたいと思った。

・ご本人も自分のために考え、寄り添ってもらっていることで安心感を持ち、希望や目標を持てたのではないかと感じた。会議後のご本人の感想やその後の様子でもうかがえました。

・お一人への”こうしたい””こうありたい”という先に向けての希望はこちらもうれしくなりました。多くの専門サポーターからのアドバイスはご本人にとって有益ですね。全ての高齢者の方に来たらどんなに心強いただろうと思いました。

●令和3年度「地域ケア個別会議」実施状況について 資料4

今年度実施した7件について報告させていただきます。

支援者が精神疾患・若年性認知症・ペットに関する事など、課題は多岐にわたり、高齢分野にとどまらない支援が複合的な機関の支援が必要になってくるケースが多くありました。

また、本人だけでなく、支援者や家族に対しても支援が必要なケース(No.6,7)もありました。関係機関も会議に参加していただくことで課題を共有し、状況改善に向けた多面的な支援体制を整えることができました。

【委員からの意見と回答】

・これからも、自立支援・介護予防に向けた地域ケア個別会議と同様に、コロナ禍で大変かと思いますが、積極的な取り組みの継続をお願い致します。

・個々の力が必要とする支援内容が多岐に渡り関わっている事例を確認いたしました。

・+、-の側面を具体的に挙げることで、できること、改善していくべきことが、分かりやすく挙げ

られていていいと思う。車いすにCM等の連絡先を記入する工夫はすばらしいと思います。

・地域ケア個別会議の報告によると、非常にきめ細やかな支援を各担当者が行っているのには驚きました。

・7症例中5症例に認知症に関連した課題があり、現在区や包括の対応の大半を占めているのではないかと思います。その中で医師や看護師を交えての会議が開催されていることは非常にいい点だと思います。ただセラピストの存在が見えず残念です。デイサービスでの困ったケースの評価や対処を一時的にデイケアに依頼し、再度デイサービスにお戻しするといった循環の必要性を感じます。

⇒（回答）認知症に関連するケース対応は今後も増えていくことが予想されます。訪問介護支援事業所や通所介護支援事業所の方にも参加していただいているケースもございましたが、今後も必要に応じてご協力いただき、多方面から支援できる体制づくりを目指してまいります。

・介護保険では対応できない支援者や同居家族、ペットの問題など誰に相談し、どう関わっていったらいいのか担当のケアマネジャーの不安も大きいと思う。若年性認知症の方が利用できるサービスが少ないと感じている。

・課題が多く、多くの人の目と多くの人の手が必要と感じた。関係者の皆様ご苦労様です。ありがとうございました。

・難しいケースが多くご苦労を感じました。ご本人だけでなく、ご家族が大きい壁になっていて手を差し伸べても無力感を感じられることの連続かと思います。チームでの対応の大切さを感じました。

●令和3年度「地域ケア包括合同会議」実施状況について 資料5

令和元年度・2年度の地域ケア個別会議の事例をもとに、地域課題の種について検討しました。その中で、『高齢化するマンション』に焦点を当て話し合ったところ、マンションに対する地域包括支援センターの周知が不十分であることが、課題に挙がりました。

- ・分譲と賃貸の住民構成を話し合い、移動（入れ替わり）が少ないことから分譲マンションを優先
- ・分譲マンションの構成員は、管理会社・理事長や理事・一般の住民・管理人がおり、それぞれに伝えたいことが異なる。
- ・管理する立場の人、生活している人で訴求するポイントが異なる。

伝えたい人の状態像を想像した上で、地域包括支援センターが“誰に” “何を” 伝えたいのか。

また、“どのような時に地域包括支援センターに相談・連絡がほしいのか”などを、各地域包括支援センターの全職員で話し合ってもらう時間をとることとなりました。

また、第一弾として『分譲マンションの住民に対して、地域包括支援センターを知ってもらうためのチラシ』を作成し、各地域包括支援センターからプレゼンテーションする機会を設けることになりました。

【委員からの意見と回答】

・「高齢化するマンション」への対応は今後重要性が増す課題であり大変よかったと思います。将来的に全体会議の議題とすることを視野に、引き続き検討していただければと思います。

・マンションにおける広報等取り組みを検討されているとのこと、コロナ禍で人との交流の機会が高齢者も少なくなっている状況もあり、情報を伝える方法の工夫はとても重要と思います。引き続きよろしくお願い致します。

・地域へのつながりが少ないマンション住民に対する地域包括支援センターの周知は本当に大切だと感じました。

・マンション住民の高齢化、地域の問題を確認しました。介護予防や地域包括支援センターを周知する活動を期待します。

・分譲マンションへの地域包括支援センターの活動案内チラシを管理者向けと住民向けに作成することは理にかなっていていい方法。

・P.1の住民参加型・不参加型の会議の選択・改正、大変にいいと思いました。

P.2～のR3.10.28、R4.1.26実施会議（マンションの件）は、地域にとっても身近な内容で大変参考になりました。

・”地域包括支援センター”の支援内容だけでなく名前も知らない人も多いようです。チラシなどもありますが、活動をSNSにあげるなど、年配の方には難しいですが、地域の手足また見守る眼になる世代には伝わるのではと思います。小学校・中学校の学習、イベント時に体験してもらおうと親にも周知が進むのではと思いました。

⇒（回答）地域包括支援センターの認知度の低さは課題であると捉えております。そこで現在は、マンションの管理人に向けた周知に取り組んでおります。今後ともマンション住民をはじめ、周知

先の拡大を目指してまいります。